

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所長
(公 印 省 略)

令和 7 年度農作物病虫害発生予察情報について

令和 7 年度農作物病虫害発生予報第 2 号を発表したので送付します。

令和 7 年度農作物病虫害発生予報第 2 号

令和 7 年 5 月 20 日
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5 月第 3 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 44. 4%、25 株当たりの本田生息虫数が 1. 2 頭と、平年(46. 0%、2. 1 頭)並の発生である。

(2) 高松地方气象台が 5 月 15 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、田植後 10～15 日後に薬剤を施用する。

(2) 活着が悪い水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5 月第 3 半旬の巡回調査では、春葉での発生圃場率が 12. 5%、発病度が 0. 0 と、平年(24. 0%、0. 2)に比べてやや低い。

(2) 高松地方气象台が 5 月 15 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生園では落花期に薬剤防除を行う。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第3半旬の温州みかん巡回調査では、枯れ枝から黒点病菌が確認された圃場率は57.1%と、平年(52.4%)並の発生である。枯れ枝中の α 型孢子数は 0.7×10^4 個/g(平年： 0.9×10^5 個/g)であった。

(2) 高松地方气象台が5月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

(2) 落花期に薬剤防除を行い、その後1か月毎、または降水量200～250mm毎に防除を励行する。

かいよう病(スダチ)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第3半旬のスダチ巡回調査では、旧葉での発生圃場率が62.5%と、平年(87.3%)に比べてやや低いが、発病度は2.2と、平年(2.7)並の発生である。

(2) 高松地方气象台が5月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病枝の剪定を行い、常発園では必ず防除を行う。

(2) 前年、果実の着果量が少ない園では、前年の夏・秋芽が増加しやすく、罹病枝が多くなる可能性が高いため、夏・秋枝の剪定を徹底する。

(3) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年より遅い

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫は、5月20日に発生を認めた(平年:5月14日、前年:5月15日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は、IGR剤・ネオニコチノイド剤の場合、第1世代は、ふ化幼虫初発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合、35～40日後の時期である。

(2) スダチでは、有機リン剤による防除は行わない。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が53.7%、寄生葉率が9.1%)。

(2) 高松地方气象台が5月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。防除の際には、かけむらのないように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、葉では発生圃場率が3.8%、寄生葉率が0.0%、果実では発生圃場率が5.0%、発病果率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が5月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 摘果期に薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤耐性菌が出現する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、寄生新梢率が0.2%と、平年(31.3%、1.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が5月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯調査においては、勝浦町では平年(4月19日)同時期の4月19日に、上板町では平年(4月16日)より2日遅い4月18日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。
- (2) 同調査において、4月第1半旬から5月第2半旬までの誘殺数は、勝浦町では、ツヤアオカメムシが3頭、チャバネアオカメムシが1頭と、平年(90頭、106頭)に比べて低い。また、上板町では、ツヤアオカメムシは9頭と、平年(70頭)に比べて低いが、チャバネアオカメムシは29頭と、平年(33頭)並であった(表1)。
- (3) 高松地方気象台が5月15日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]								[チャバネアオカメムシの誘殺数]							
月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年			2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
4	1	0	2	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	1	0	0	0	0		2	0	1	0	0	0	0
	3	0	1	0	0	1	0		3	0	0	1	0	2	0
	4	1	1	0	3	108	1		4	1	1	2	0	6	1
	5	1	14	5	2	262	7		5	0	3	15	19	43	8
	6	0	154	8	1	1125	11		6	0	40	18	1	54	8
5	1	1	202	48	2	384	32	5	1	0	229	35	9	12	9
	2	0	89	28	1	148	19		2	0	6	36	0	2	6

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚＞多＞中＞少＞無

発生量：多い＞やや多い＞並＞やや少ない＞少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

URL： <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。